

私立 鈴鹿短期大学

取組名称 効果的なインターンシップのためのキャリア講座の拡充化

取組担当者 学生支援部長・准教授 永石 喜代子

1. 本学の概要

鈴鹿短期大学は、1966(昭和41)年4月に家政科を設立し、「誠実で信頼できる人に」を建学の精神に掲げ、三重県下唯一の養護教諭養成のための高等教育機関として、また栄養士の養成施設として今日の礎を築いてきた。1991(平成3)年には生活学科と学科名を変更、生活学専攻、食物栄養専攻となる。2005(平成17)年度からはこども学専攻を設置し、地域社会に貢献できる「あてになる人材」「豊かな人間性」の育成を目標としている。

現在は生活学科生活学専攻(養護教諭・福祉コース)、生活学科生活学専攻(生活コミュニケーションコース)、生活学科食物栄養専攻(栄養教諭・栄養士コース)、生活学科こども学専攻(幼稚園教諭・保育士コース)があり、252名の学生が学んでいる。

2. 本取組の概要

着実なキャリア形成(自己分析、業界・企業の研究)並びに就職への円滑な移行が図られるようインターンシップを必修化し、この効果を高めるためキャリアデザイン(将来設計)講座を拡充する。学内外の講師を活用した職業指導の継続的な実施により、自己分析力、社会人基礎力の向上を図り、就職ガイドブック、キャリアプラン設定シート、パソコンを活用した情報収集・適職診断の指導を徹底させる。連携施設・企業へのインターンシップとその事前・事後指導を通して、自己課題を把握させ、キャリア意識を育成し、就職活動への動機づけを高める。並行して進路支援体制を拡充し、学修相談、進路アドバイスを適切に進めることにより、職業ミスマッチを防ぐとともに、学生の資質・適性に応じたきめ細やかな進路支援を実現することを目指す。

3. 本取組の趣旨・目的・達成目標

(1) 本取組の趣旨

効果的なインターンシップを実施するため、キャリアデザイン講座の内容を拡充し、学生の着実なキャリア形成(自己分析、業界・企業の研究)、並びに就職への円滑な移行が図られることを目的とする。キャリア講座の質・量双方の拡充を通じた継続的なキャリア支援の実施とそのサポート体制の整備により、就職支援体制の強化を図るものである。

(2) 本取組の目的

本取組では、インターンシップの参加率・効果・満足度を高めることを目標とする。

本年度の目的は、上記の効果的なインターンシップの実施を可能にするためのサポート体制の充実、並びにキャリアデザイン講座の拡充を達成するために、①パソコン等の支援環境の整備、②キャリア支援委員会、並びに進路支援担当者の研修会の開催・参加、③就職ガイドブック・キャリアプラン設定シートを活用したキャリアデザイン講座の開始に取り組み2009(平成21)年度事業(2010(平成22)年1月末まで)に関するアンケート調査の検討を行うとともに、進路担当者の研修会の開催・参加を通してサポート体制の充実を図り、2009(平成21)年度事業の分析による2010(平成22)年度以降のキャリア講座の内容の検討・精査・調整が可能となり、2010(平成22)年度におけるインターンシップの効果をより高めることが目指される。

(3) 本取組の達成目標

①「パソコン等の進路支援環境の整備」においては、進路室敷設の情報処理環境の充実を図ることによって、学生の就職情報へのアクセサビリティの向上が図られ、2010(平成22)年度以降のキャリア教育における自己分析・適職診断を進める環境が整備する。本学には、経済的事情から自宅にパソコンを所有しない学生が多く見られるが、この層の支援に対し、より大きな効果を

発揮する。

②「2009(平成21)年度進路支援事業(2010(平成22)年1月末まで)に関する学生、受入先施設・企業へのアンケート調査分析」においては、2009(平成21)年度における進路支援事業に関して、学生並びに受入先施設・企業へ、すでに配付しているアンケートを回収し、この分析を進めることによって、2009(平成21)年度における支援事業のよい点(要継続点)・わるい点(要改善点)が精査され、これが2010(平成22)年度以降のキャリア支援の方向性の検討とその効果を高める具体的な素材の精査につながる。

③「キャリア支援委員会の開催」においては、上掲②のアンケート調査の結果が検討され、これを受けて2010(平成22)年度のキャリアデザイン講座の内容が検討される。アンケート調査の結果から、学生、受入先施設・企業双方のニーズと、今後の改善点が把握され、これが勘案されることにより、より一層効果的なキャリア支援事業の推進が図られる。特に、2010(平成22)年度のキャリアデザイン講座の内容の精選・検討に効果を発揮し、これがインターンシップの効果を高めることにつながるが見込まれる。

④「進路支援担当者の研修会」においては、パソコン機器を活用した情報収集・自己分析・適職診断をサポートするための、進路支援者のスキル向上が図られ、学生への適切な進路アドバイス、学修相談が推進されるよう支援者の資質の向上が図られる。並びに学外の進路支援担当者の研修会へ出席することを通して、就職情報が収集され、これはキャリアデザイン講座の内容の充実に役立てられる。キャリア支援委員会の検討結果を受けた進路支援担当者の研修会の開催と、そこにおける検討を踏まえ、キャリアデザイン講座の担当者へ、実施講座のより効果的な内容の充実(2009(平成21)年度に実施されている講座については内容の改善)に関して詳細な指示・要望が示される。

⑤「キャリアデザイン講座」においては、キャリアプラン設定シート・就職ガイドブック、整備された進路支援環境が活用される。このキャリアデザイン講座は、2010(平成22)年度に継続して実施されるものであり、この講座を踏まえてインターンシップが実施される。結果として学生の就職への円滑な移行、職業ミスマッチが防がれることが期待される。

4. 本取組の具体的内容・実施体制

(1) 本取組の具体的内容

本補助事業は、選定された「大学教育・学生支援推進事業」支援プログラムにおける「効果的なインターンシップのためのキャリア講座の拡充化」について、効果的なインターンシップの実施に向けたキャリアデザイン講座の一層の充実・発展、並びにサポート体制の充実を目指す補助事業である。

①「進路室敷設のパソコン機器等の進路支援環境の整備」においては、進路室敷設のパソコン並びに周辺機器・什器類を購入することによって、進路支援環境の充実が図られる。



写真1 進路室敷設のパソコン

②「2009(平成21)年度進路支援事業(1月末まで)に関する学生、受入先施設・企業へのアンケート調査分析」においては、2009(平成21)年度(2010(平成22)年1月末まで)における進路支援事業に関して学生へのアンケート、「三重県『産・学』就職情報交流会」へ参加される企業へ〈現下、必要とされる人材育成に役立つキャリア講座〉についてのアンケート、すでに配付している卒業生採用先企業へのアンケートを回収し、この分析を進める。

卒業生採用先企業へのアンケート
【本人への問い】 【回答】20代・30代・40代・50代・60代、性別男・女

力	要素	定義	知覚できる いえるできる	感得は知覚より 得たてである	知覚できない できない わがまま
意欲	主体性	物事に進んで取り組んでいる			
	目標設定	目標を設定し実行している			
	規律性	提出物等 約束の時間、期限を守ることができる			
考えの力	責任感	結果の一員としての自覚がある(行動結果 目標達成)			
	課題発見力	現状を分析し、課題が明確である			
	計画力	仕事を進める手順、優先順位が明確である			
コミュニケーション力	対話力	個人間の積み重ねができる			
	対立力	自分の意見が伝えられる			
	調整力	相手の意見が聴ける			
職業人意識	柔軟性	相手との意見交換が円滑にできる			
	協調性	集団で作業・行動することができる			
	積極性	場面に応じて、適切に相手と接することができる			
専門知識	専門知識	必要知識を習得している			
	応用知識	必要知識を応用している			
	実践力	理論的知識を実践できる			
その他(自由記述)		知識の向上に努めている			
		向上心 新入社員にキャッチアップを促しているか?			

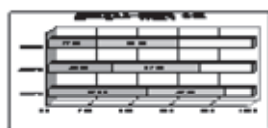
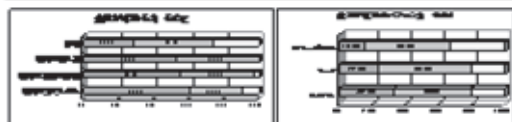
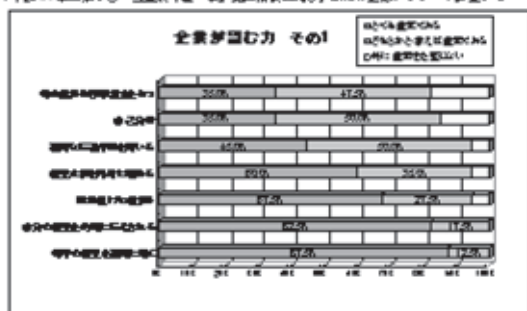
ご協力ありがとうございました。今後いただいたご意見を元に就職支援的キャリア教育の充実に努めてまいります。

資料1 卒業生採用先企業へのアンケート

こんな学生を企業は求めている

2020年 岩波大学 学生支援委員会

※資料 1 岩波大学「生涯キャリアデザイン」推進プロジェクト推進委員会



- ◆ 自分の意見があり、人の意見も聞くことができる人を企業は求めています。
- ◆ 授業や実習・実習・海外研修などの様々な環境に積極的にチャレンジし、社会人としての力を身につけていくことが大切です。
- ◆ 進路支援委員のあなたの力を、あなた自身でつぎ進みましょう！

資料 2 受け入れ先施設・企業へのアンケート結果

③「キャリア支援委員会の開催」においては、上掲②のアンケート調査の結果が検討され、これを受けて2010(平成22)年度のキャリアデザイン講座の内容が検討される。

④「進路支援担当者の研修会」は、学外の進路支援担当者の研修会(「三重県産学就職情報交換会」)へ出席し、就職情報が収集され、これはキャリアデザイン講座の内容の充実に裨益される。学内に関しては、パソコン機器を活用した情報収集・自己分析・適職診断をサポートするスキルの向上が図られる。



写真 2 学内進路支援担当者研修会

⑤3月以降に推進される「キャリアデザイン講座のスタート」においては、キャリアプラン設定シートと就職ガイドブックを配付する。

これらを通じて、選定された取組をさらに充実・発展させ、効果的なインターンシップの実現を図り、その結果、学生の就職への円滑な移行と職業ミスマッチを防ぐことを図ることが、本補助事業の内容である。

(2) 本取組の実施体制

進路担当者とゼミ担当者には密接な協力体制が結ばれ、連携施設・企業との間には長年に亘る密接な協力関係が形成されている。教務部と学生部の連携により、キャリア講座の必修化は具体的に検討されている。これらの要因により、積極的な事業の推進は可能な体制にあると考えられる。

5. 本取組の評価体制・評価方法

(1) 本取組の評価体制

本取組では、進路支援グループの上位にキャリア支援委員会を設置するとともに、キャリア講座の受講生、並びに連携施設・企業へのアンケート調査を実施し、双方のニーズに適ったキャリアデザインの達成度を検討する。またキャリアプラン設定シートを活用し目標の達成度を確認する。これらの評価は、キャリア支援委員会によって総合的に判断される。

(2) 本取組の評価方法

入学時より定期開催されるキャリア講座を行うことにより、講座への参加が定着し、キャリア教育の段階的な実施が図られる。またインターンシップを通じて職業研究が深められ、学生の適性に応じたキャリアデザインが設計される。キャリアプラン設定シートへの記録とアンケートの実施で学生の達成度・満足度の把握が可能となることから、80%を目標にこれを推進する。

6. 本取組の実実施計画等

本年度の補助事業の目的を達成するため、

- ①進路室敷設のパソコン機器等の進路支援環境の整備
- ②21年度進路支援事業(22年1月末まで)に関する学生、受入先施設・企業へのアンケート調査分析
- ③キャリア支援委員会の開催(アンケート結果の検討とキャリアデザイン講座の内容の検討)
- ④進路支援担当者の研修会への参加
- ⑤キャリアデザイン講座のスタート(キャリアプラン設定シートの就職ガイドブックの配付)に取り組む。

事例57◆ 鈴鹿短期大学

以上のように、本プログラムは、着実なキャリア形成（自己分析、業界・企業の研究）並びに就職への円滑な移行が図られるようインターンシップを必修化し、この効果を高めるためキャリアデザイン（将来設計）講座の拡充を図るものである。